

共に関わり合いながら、主体的に学ぶ児童を育てる指導

(3) 指導過程

段階	T：教師の発問，説明等 C：予想される児童の反応・発言等	□：評価 ・：指導上の留意点，支援等((算)算数科に係る内容(協)協働的な学びに係る内容)
導入 5分	1 学習班の仲間と授業開始のあいさつをする。 2 前時までの既習事項の確認をする。 倍数，公倍数，最小公倍数の意味，公倍数の求め方を確認する。 3 学習課題を知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> みんなで長方形をしきつめてできる，一番小さな正方形をつくろう。 </div> 4 みんなで学ぶ時に大切にしたいことを確認する。 学習班で学ぶとき ・友達の話を大切に聞く。 ・友達が納得できるように伝える。 ・みんなで考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつにひと言付け加えさせ，学び合う雰囲気づくりを行う。(協) ・本単元で扱う用語等の確認を通して，既習事項の定着を図る。(算) ・既習事項の確認はペアで行い，協働的な学びがしやすい雰囲気作りを行う。(協) (要支援域児の様子を注視し，良い関わりが見られた時は褒めて，望ましい行動を強化する) ・学習班での学習に向けて，大切にしたい姿を具体的に示す。(協)
展開 30分	5 問題を知り，問題場면을具体的に理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> たて2cm，横3cmの長方形を同じ向きにすきまなくしきつめて，正方形を作ります。 できる正方形のうち，いちばん小さい正方形の1辺の長さは何cmですか？ </div> T：実際に長方形のカードをしきつめて，正方形を作ってみましょう。 C：縦に3枚，横に2枚しきつめると正方形ができる。 C：縦に6枚，横に4枚しきつめると正方形ができる。 C：一番小さい正方形をつくるのが条件にあるから，縦に6枚，横に4枚しきつめた正方形は間違っている。 T：前回までに学習したことを使って，この問題を考えることはできませんか。 C：縦と横をどちらも6cmにしている。これが公倍数。 C：正方形はどの辺の長さも等しいから，最小公倍数を求めればいい。 T：この問題の答えの求め方を図や文章，式などを使ってまとめましょう。 C：縦と横の長さを等しくするために，公倍数を使うんだね。 C：縦に3枚，横に2枚ならべると，正方形になる。 正方形の辺が公倍数(最小公倍数)になっている。 1辺の長さは6cm。 T：この問題のポイントをまとめましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 長方形の辺の長さの最小公倍数を求めると，しきつめてできる一番小さな正方形の辺の長さが分かる。 </div> 6 自力解決 T：自分で長方形の縦と横の長さを決めて，その長方形をしきつめてできる一番小さな正方形を作ってみましょう。 C：長方形の縦の長さを4cm，横の長さを5cmにしよう。 4と5の最小公倍数だから，20cmになるようにすればいい。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を音読し，明らかになっている条件や問われている内容について確認する。(算) ・問題と同じ長方形のカードを問題の条件に合うように並べさせ，問題解決への見通しを持たせる。(算) ・児童とのやりとりを通して，既習事項や本単元で扱う用語について理解させ，それらを活用して問題を解決できるようにする。(算) ・つまずきが見られる児童には，最初に行った問題を振り返り，長方形の縦の長さの倍数と横の長さの倍数から公倍数を求めることで，正方形の1辺の長さが求められることを確かめる。(算) ・自力解決の場面では，学習カードを活用し自分の考えを整理しながら問題の条件に合った正方形を作ることができるようにする。(算)

共に関わり合いながら、主体的に学ぶ児童を育てる指導

	<p>7 グループ学習</p> <p>T：自分で作った長方形をしきつめて作った正方形を学習班の友達に紹介します。ポイントは2つ。公倍数の考え方を使っているか、本当に一番小さい正方形ができるかどうか。それをみんなで確認します。</p> <p>T：みんなで学ぶ時に大切にしたいことを意識して学習できるとよいですね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習においては、自分の考えをまとめた学習カードを基に説明ができるようにする。(算) ・学習に対する適応感を高めるために、自力で作成した正方形が問題の条件に合っていた時は、友達からのサインをもらうようにする。(協) ☑公倍数を用いて、問題を解決することができる。(ワークシート) ・要対人支援域の児童に対しては、グループ学習の際、友達の話を大切に聞くことを意識付け、望ましい行動が見られた際は、賞賛する。(協)
<p>終 末 10 分</p>	<p>9 適用問題を行う 教科書 p.85 7 の問題を行う。</p> <p>10 振り返り 振り返りの視点 ① 今日の学習班での学びの良かったところ ② 次の学習でもっとよくしていきたいところ</p> <p>11 学習班の仲間と授業終了のあいさつを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・適応問題を通して、本時の学習に対する児童の理解度を見取る。(算) ・振り返った内容を学習班内でシェアリングさせることで、次時への学習意欲を更に高めていく。(協)

第5学年算数科学習指導案

指導月日 令和元年10月18日
 所属校名 石巻市立山下小学校
 氏名 田中 浩司

1 単元名 「分数の足し算と引き算」(東京書籍 新編新しい算数5上)

2 単元の目標

- (1) 大きさの等しい分数の存在を認め、約分や通分の意味や異分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考え、分数の意味の理解を深めようとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 単位の考えに着目して、分母をそろえることの意味を考え、異分母の分数の加法及び減法の計算を捉えることができる。(数学的な考え方)
- (3) 約分、通分や異分母の分数の加法及び減法の計算をすることができる。(技能)
- (4) 分数の性質や約分、通分の意味、異分母の分数の加法及び減法の意味やそれらの計算の仕方について理解する。(知識・理解)

3 単元観

本単元は、小学校学習指導要領算数編第5学年「A数と計算」の「(5) 分数の加法、減法」を受けて設定したものである。

児童は、第4学年で和が1を超える同分母の分数の加法及び減法について、数を構成する単位に着目し、計算の仕方を考えることを学習してきた。第5学年では、分数の意味や表し方について深めた理解の上に、異分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算ができるようにすることをねらいとしている。分数の計算については、真分数をはじめ、仮分数や帯分数を含むものも指導する。その際、いたずらに複雑な計算を指導するのではなく、分数の意味や表現に着目し、計算の仕方を考えることや分数の計算を今後の学習へ活用できるようにすることを重視する必要がある。

ここで育成される資質・能力は、第6学年の分数の乗法及び除法について、数の意味と表現、計算に関して成り立つ性質に着目した計算の仕方などの考察に生かされるものである。

4 児童の実態 [第5学年1組 男16名 女19名 計35名]

(1) 協働的な学びに関する意識調査より

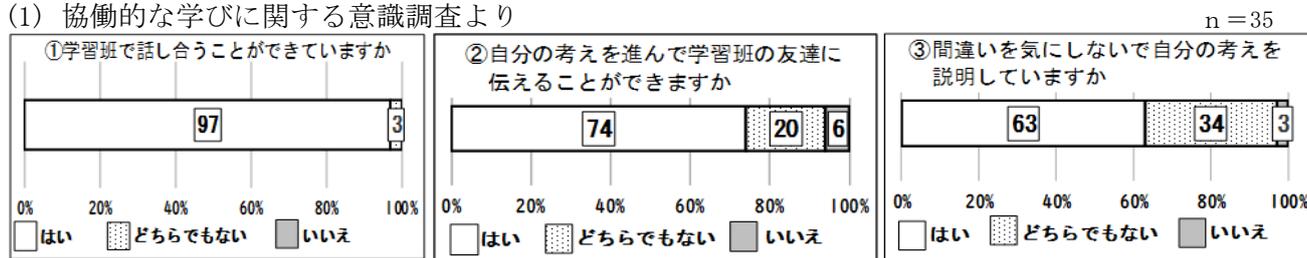


図2 協働的な学びに関する意識調査

協働的な学びに関する意識調査では、多くの児童が自分の考えを伝えたり、友達と話し合ったりできていると感じている。設問③の「間違いなどを気にしないで自分の考えを学習班の友達に伝えることができるか」では、「どちらでもない」「いいえ」と回答した児童が37%(13名)おり、協働的な学びを効果的に取り入れていく中で、児童が友達と関わり合いながら学習することのよさを実感し、自分の考えを伝えることへの意欲を高めていきたい。

(2) CRTの結果より

昨年度実施したCRTでは、本単元に関わる数と計算領域の平均得点率において、全国平均得点

率を下回った。また、内容別では、整数の仕組みは全国平均を上回ったのに対し、除法については全国平均を下回った。本単元では約数や公約数求める場面において、つまずきが予想される。

(3) アセス(学校適応感尺度)の結果より

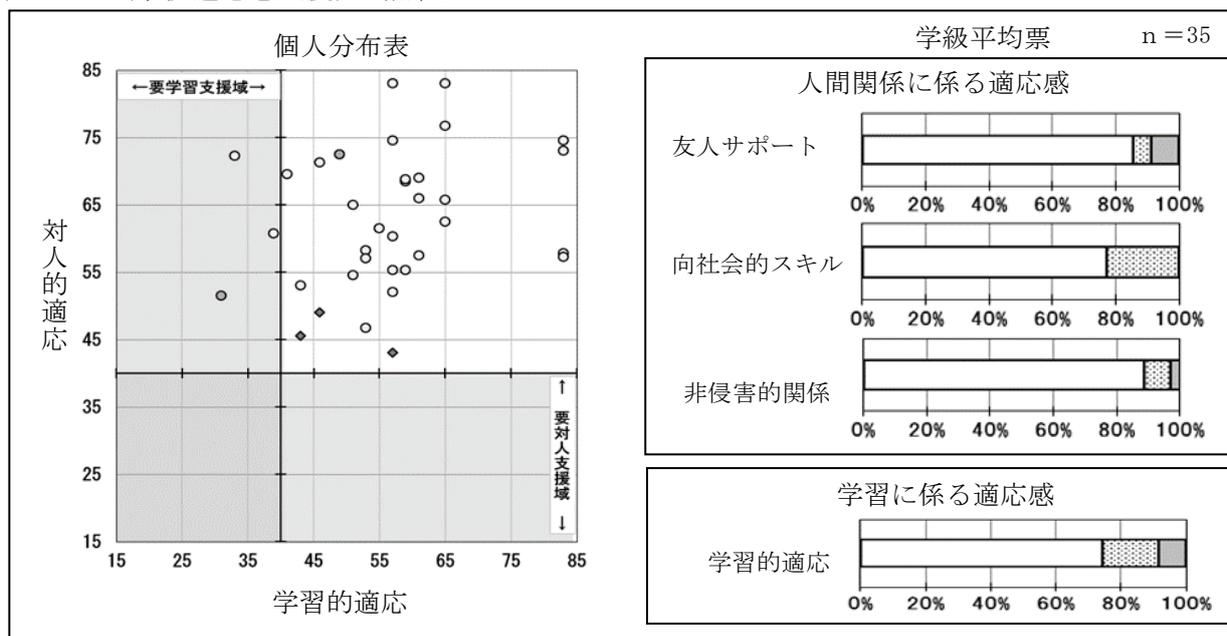


図1 アセスの結果(個人分布・学級平均)について

今年度6月に実施したアセスでは、本学級の適応感は、全ての項目において良好である。学級の適応感の状況から、効果的に協働的な学びを取り入れることで、学習の深まりやよりよい人間関係づくりが期待できる。

(4) 学習面の実態から

昨年度実施したCRTでは、数と計算領域の平均得点率を見ると、全国平均得点率よりも下回っており、整数の除法についても全国平均を下回る結果となった。昨年度2月に学習した分数の単元到達度テストの結果では、学級平均点が90点という結果であった。

CRTや単元到達度テストの結果から、本学級の児童は分数への理解はできているものと判断できる。しかし、最小公倍数の求め方やわり算を用いて通分や約分をする際に、つまずく児童が予想される。既習事項の確認や解決の見通しを持たせることを大切に扱い、児童のつまずきを解消していきたい。

5 指導観

本単元では、分数について理解を深めるとともに、異分母の分数の加法や減法の計算の仕方を考え、それらの計算ができるようにすることをねらいとしている。そして、本単元の約分、通分などの学習で「分数」についての学習は完結する。

分数は、同じ大きさではあっても様々な表し方があることが大きな特徴と言える。そして、この様々な表し方を考えることが、「約分」「通分」につながる。従って、導入時においては、わり算を使って分数の大きさが等しいことを確かめた後、「大きさの等しい分数」をつくる道筋を大切に扱っていくこととする。また、「通分」については、2つの分数の大きさ比べにとどまらず、3口の場合も十分に時間をかけて扱うことで理解を深めるとともに適用範囲を広げていく。

異分母分数の加減計算のつまずきは、約分や通分をするときに多く見られる。また、和や差を求めた後、既約分数にしていけないことも多いといえる。分数には、同じ大きさを表す様々な表記があることが不十分な状態であればあるほど、つまずきは大きいものになると考える。これらのつまずきを解消する意味でも、同じ大きさを表す分数が多様にあることやその表し方を数直線や面積図を用いて、視覚的に捉えさせていく。

6 研究主題との関連

本研究は、授業実践モデルを活用し、算数科における協働的な学びを通して、共に関わり合いながら主体的に学習に取り組む児童の育成を目指している。

単元の目標や学習内容、児童の実態等を踏まえ、授業実践モデルに示した学習の流れや支援の手立て等を選択し、授業づくりに取り入れることで協働的な学びを実践しやすくするものである。

授業実践モデルの活用例

実践モデル 準備編

協働的な学び 実践モデル 準備編

学力、人間関係等を把握します。児童の実態を基に協働的な学びづくりを行います。

Step2 構成的に学習班を編制しましょう
基本的に3～6学年の学習班は4人とします。児童の人間関係等の実態を踏まえ、構成的に学習班を編制します。構成的に学習班を編制することで協働的な学びの効果が高まります。(1・2学年は基本的に隣同士ペアで協働的な学びを行います。)

Step3 単元全体の計画を考えましょう
1.単元の目標・単元計画をしっかりと確認しましょう。
2.単元全体を見通し、どの場面にどのような協働的な学習を取り入れると効果的か考えます。

Step4 本時の学習を考えてみましょう
本時の学習はどの観点に重点が置かれているでしょうか？

Step5 本時の観点に沿って大まかな学習の流れを考えましょう

	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	知識・理解
観点に応じた学習課題の例	みんなで〇〇のよさを見つけよう。 みんなで生活の中の〇〇をさがしてみよう。	みんなで〇〇について説明できるようになる。 みんなで〇〇の仕方を説明してみよう。 多様な考えを児童から引き出し、児童が学習班や学級全体で交流しながら原理・原則を見いだしていく。	みんなで〇〇のしくみ・とくちようを知ろう。 みんなで〇〇のしくみ・とくちようを知ろう。
どの場面に協働的な学習を取り入れるか。	既習事項や生活経験を基に、さまざまな見方を働かせ、課題を解決する際に協働的な学習を設定する。	知識や技能の習熟を図る段階(後半)において協働的な学びを決定する。	短時間で行える協働的な学びを、複数回設定することで、学習内容の理解を深めることができる。

活用①
本時が数学的な考え方に重点を置いていることから、太枠の内容を参考に授業の構想を練る。

学ぼう	①今日の学習班での学びで良かったところは？	②今日の自分の学びでよかったところは？	③次の学習でもっと良くしていきたい学び方はなにか？	④次の学習で自分の学習を良くしていきたいところは？
振り返りの振り返り例	もっと知りたいことは何か？ 学習したことを生活の中で使うとしたら？	誰のどんな説明が良いと感じたか？ 今日の学習のポイントは何か？	〇〇ができるようになるためには、どんなことに気を付ければ良いか？	〇〇についての説明を自分の言葉でノートに書いてみよう。

協働的な学びを取り入れた1単位時間の授業を考えていきましょう『協働的な学び 実践モデル 授業編』へGO！

実践モデル 授業編

<p>WBを使って考えの交流を行う。</p> <p>えを交流したり、話し合ったりし、グループ思考の結果をWBにまとめる。</p>	<p>みなさんもできるとよいですね。</p>	<p>要対人支援域の児童に望ましい姿が見られたときは、意図的にその行動を取り上げ、賞賛する。</p>	<p>6</p>
<p>8 全体思考</p> <p>低学年 1 担任による意図的指名等 2 児童の考えの整理 3 全体で共有</p> <p>中学年・高学年 1 WBを黒板に掲示し、共通点・相違点を整理する。 2 今日の学習のポイントをノートに書いたり班で話し合ったりする。 3 教師が板書し、2の内容と比較させる。</p> <p>その他の方法として・・・(全体思考の活動例)</p> <p>スクランブル 自由に歩き回り、友達に自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする。</p> <p>お出かけパス 発表係が他の班の友達に自分の考えを説明する。発表係以外は他の発表を聞いて回る。</p> <p>ジグソー ①学習班内で内容ごとに担当を決める。 ②内容別にグループで学習する。 ③学習班に戻り教え合う。</p>	<p>相手に分かってもらえるように説明できるとよいですね。友達の説明を聞いて、分からないことがあったときは「それってどういうこと？」「もっと詳しくおしえて」と話してみましょう。</p>	<p>グループ思考での学習で大切にしたい言葉「つまり」具体的な事柄を一般化する言葉「たとえば」抽象的な言葉を具体的に表現する言葉(小学校学習指導要領解説算数編参照)</p> <p>教える側、教えられる側という一方的な関係にならないようにする。</p> <p>複数の友達との交流を通して、自分の考えが深まったり、新しい考えに触れて自分の考えが広まったりできるようにする。</p> <p>友達にうまく働きかけることができない児童に対して、教師がつなぎ役になるのではなく、児童と一緒に友達に声をかけるなど、関わり方を体験させる。</p>	<p>中学年 SEL: B4「他者理解」 SEL: C3「感情伝達」 SEL: D4「協力関係」 SEL: H3「ボランティア」 ピアサポートプログラム3～6</p> <p>高学年 SEL: B5「他者理解」 SEL: B7「他者感情理解」 ピアサポートプログラム3～6</p> <p>※詳細はSEL、ピアサポートプログラム参照</p>
<p>9 適用問題 適用問題(1～2問)を解く。</p> <p>10 個人思考(振り返り) 視点1: 学習内容に関する振り返り 「今日の学びのポイントをまとめよう」</p> <p>視点2: 学び方に関する振り返り 「今日の学びでよかったところ」「だれの学びの姿がよかったか」「もっとよくなるための作戦を立てよう」</p>	<p>たくさんの友達の考えにふれて、自分の考えを深めたり、広めたりしましょう。</p>	<p>活用② 本時の学習に協働的な学びを取り入れる際の留意点や支援等を選択し、本時の授業づくりを行う。(指導案指導過程参照)</p>	<p>児童の実態に応じて</p> <p>関わる振り返りを</p> <p>リングと改善手続</p> <p>低学年 SEL: C1「感情伝達」</p> <p>中学年 SEL: C3「感情伝達」 C4「意思伝達」</p>

7 単元の指導と評価の計画

振り返りの視点：(学)学習内容についての振り返り(協)協働的な学びについての振り返り

時	目標	学習活動	主な評価基準	振り返りの視点
(1) 大きさの等しい分数				
1	○分数の分母と分子に同じ数をかけても、同じ数でわっても、分数の大きさは変わらないことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容を振り返る。 1/4と大きさの等しい分数の作り方を考える。 1/4=4/16であることを確かめる。 分数の性質として大きさの等しい分数の作り方をまとめる。 	<p>考大きさの等しい分数間にあるさまりを見だし、大きさの等しい分数の作り方を考えている。</p> <p>技大きさの等しい分数をつくることができる。</p>	(学)大きさの等しい分数の作り方のポイントを自分の言葉でまとめる。
2	○「約分」の意味について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 18/24と大きさの等しい分数の見つけ方を考える。 用語「約分」を知り、方法をまとめる。 	<p>技異分母の分数を通分することができる。</p> <p>知分数の性質を使った、分数の大きさの比べ方を理解している。</p>	(学)約分の時に気を付けること。 (協)誰の学びが良かったか。
3	○「通分」の意味について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 3/4と4/5の分数の大きさの比べ方を考える。 用語「通分」を知り、方法をまとめる。 	<p>技異分母の分数を通分することができる。</p> <p>知分数の性質を使った、分数の大きさの比べ方を理解している。</p>	(協)学習班での学びで良かったところと次に良くしていきたいところ。
4		<ul style="list-style-type: none"> 1/2と2/3と1/4の通分の仕方を考える。 適用問題に取り組む。 		(学)通分の時に気を付けること。
(2) 分数の足し算と引き算				
5	○単位の考え方から分母をそろえる方法を用いて、異分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1/5+1/2の計算の仕方を考える。 通分してから計算することをおさえる。 1/2-1/5の計算の仕方を考える。 加法も減法も通分してから計算すればよいことをまとめる。 計算練習をする。 	<p>考異分母の分数の加減計算の仕方について、分母をそろえることの意味を考え、説明している。</p>	(協)今日の学習班での学びの良かったところと次に良くしていきたいところ。
6	○約分ができる場合の加減計算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1/6+3/8の計算の仕方を考える。 途中で約分する方が手際の良いことをおさえる。 計算練習をする。 	<p>技異分母分数の加減計算(約分あり)ができる。</p> <p>知答えが約分できるときは約分すると大きさが分かりやすいことや、分母を最小公倍数にすると計算しやすいことを理解している。</p>	(学)今日の計算のポイントを自分の言葉でまとめる。
7	○帯分数の加減計算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1と3/5+2と1/3の計算の仕方を考える。 通分してから整数部分、分数部分どうしを計算する方法と、仮分数になおして通分して計算する方法があることをおさえる。 計算練習をする。 	<p>考帯分数の加法計算の仕方を、帯分数の構造や既習の真分数の計算を基に考え、説明している。</p> <p>考帯分数の加法計算ができる。</p>	(協)誰のどのよな説明が分かりやすかったか。

共に関わり合いながら、主体的に学ぶ児童を育てる指導

8	○帯分数の減法計算の仕方を理解し、その計算ができる。	・帯分数の加法計算の仕方を基に、 $2と3/4-1と2/3$ の計算の仕方を考える。	考帯分数の加法計算の仕方を基に帯分数の減法計算の仕方を考える。 技帯分数の減法計算ができる。	(学)計算のポイントを自分の言葉でまとめる。
9 本 時	○分数と小数の加減混合計算ができる。	・ $2/5+0.3$ の計算の仕方を考える。 ・小数を分数で表せば、いつでも計算できることを理解する。 ・計算練習をする。	考数の表し方を工夫して分数と小数の混じった加減の計算の仕方を考え、説明している。	(協)今日の学習班での学びの良かったところ。 次の学習でもっと良くしていきたいところ。
(3) 時間と分数				
10	○分数を用いた時間の表し方を理解する。	・45分を時間の単位で表すことを考える。 ・ $9/12$ 時間、 $3/4$ 時間が $45/60$ 時間と等しいことを通分して確かめる。	技時間の単位を変えて分数で表すことができる。	(学)時間を分数で表す時のポイントをまとめる。
(4)まとめ				
11	○学習内容を適用して問題を解決する。	・「力をつけるもんだい」に取り組む。	技学習内容を適用して、問題を解決することができる。	(学)分数の学習を振り返る。
12	○学習内容の定着を確認する。	・「しあげ」に取り組む。	知基本的な学習を身に付けている。	

8 本時の計画

(1) 目標

数の表し方を工夫して分数と小数の混じった加減の計算の仕方を考え、説明することができる。

(2) 本時の指導に当たって

本時は、前時までには分数を割り算の式に表す方法、通分、約分、異分母分数の加法と減法、仮分数や帯分数の加法と減法について学習している。本時では、小数と分数が混じった計算の仕方について考えさせ、2通りの計算の仕方を比較することで汎用性が高い方法について気付かせていく。

本時のねらいを達成するために、算数科における協働的な学びを展開していくことが効果的であり、実践モデルから協働的な学びに係る支援や学習活動を選択して、算数科の学習に効果的に取り入れていくこととする。

導入では、本時の学習内容に関連した既習事項の確認を行うとともに、協働的な学びを促すための雰囲気づくりを行っていく。また、児童の実態を踏まえ、学びの中で大切にしたい姿を設定し、児童に明確に示すことで、協働的な学びを通して、よりよい人間関係づくりも促していく。

展開では、ジグソー法を用いた協働的な学びを取り入れ、児童が自分の選択した計算の方法を学習班の友達に説明することを通して、学習内容の理解を確実なものにしていきたい。

終末では、単元を通して設定した振り返りの視点(単元計画参照)に基づき、本時の学習の振り返りをさせる。本時では、協働的な学びに関連した視点を示すこととし、友達と関わりながら学習することのよさを実感し、自らの学習をよりよいものにしていこうとする意欲を高めていきたい。

(3) 指導過程(別紙)

(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準	十分満足できる	努力を要する児童への手立て
数学的な考え方	・数の表し方を工夫して分数と小数の混じった加減の計算の仕方を考え、説明している。	・既習の用語等を適切に用いながら、2通りの計算の仕方を筋道立てて説明し、分数にそろえて計算する方法の良さに気付いている。	・数直線を用いて小数を分数に表したり、最小公倍数を用いて通分をしたりしながら、2通りの計算の過程を確かめる。

(5) 準備物

教師：ワークシート・掲示資料

(6) 板書計画

みんなで、小数と分数がまじった式の計算の仕方を考え、説明できるようになる。

$\frac{2}{5} + 0.3$

↓

分数を小数になおす。
(小数にそろえる)

$$\frac{2}{5} + 0.3 = 0.4 + 0.3 = 0.7$$

小数方式

$\frac{2}{5} + 0.3$

↓

小数を分数になおす。
(分数にそろえる)

$$\frac{2}{5} + 0.3 = \frac{2}{5} + \frac{3}{10} = \frac{4}{10} + \frac{3}{10} = \frac{7}{10}$$

分数方式

$\frac{2}{3} + 0.5$

↓

分数方式 小数方式

$$\frac{2}{3} = 0.666\dots$$

$$\frac{2}{3} + 0.5 = \frac{2}{3} + \frac{5}{10} = \frac{20}{30} + \frac{15}{30} = \frac{35}{30} = \frac{7}{6}$$

分数と小数の混じった計算は分数や小数にそろえて計算します。小数に表すことができないときは分数にそろえて計算します。

大切にしたい学び

①まちがい・わからないを大切にする。

②自分の考えを分かるように伝える。

③友達の話大切に聞く(否定しない)。

共に関わり合いながら、主体的に学ぶ児童を育てる指導

(3) 指導過程

段階	主な学習活動	□：評価												
導入 5分	T：教師の発問，説明等 C：予想される児童の反応・発言等 1 学習班の仲間と授業開始のあいさつをする。 2 学習で大切にしたい姿を確かめる。 ①まちがい・分からないを大切にす。 ②自分の考えを分かるように伝える。 ③友達の話大切に聞く(否定しない)。 3 前時までの既習事項の確認をする。 T：計算の仕方をペアで確認しましょう。 $\frac{2}{3} + \frac{1}{2} \quad 1\frac{2}{3} + 3\frac{1}{2}$	・：指導上の留意点，支援等((算)算数科に係る内容(協)協働的な学びに係る内容) ・ひと言を添えてあいさつをさせ，学び合う雰囲気づくりを行う。(協) ・既習事項の確認はペアで行い，協働的な学びがしやすい雰囲気をつくる。(協) ・要対人支援域児により関わりが見られた時は褒めて，望ましい行動を強化する。(協) ・既習事項の確認では答えを求めめるのではなく計算の仕方を確認させる。(算)												
展開 30分	4 問題①を知り，既習事項との比較をする。 $\frac{2}{5} + 0.3$ C：ん？分数と小数がまじっている。 C：このままで計算できるのかな。 5 学習課題を設定し，課題解決の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> みんなで，小数と分数がまじった式の計算の仕方を考え，説明できるようになる。 </div> T：このままの式で計算できそう？ C：できない。どちらかにそろえないと。 T：どちらかにそろえるってどういうこと？ペアで話し合ってみて。 C：小数になおすか，分数になおすかしないと計算できない。 T：小数になおす方法を小数方式，分数になおす方法を分数方式とします。学習班で2人ずつ，どちらの方式で計算の仕方を考えるか役割分担をしましょう。 6 個人思考 自分が選んだ方法での計算の仕方について，自分の考えをワークシートに記入する。 7 グループ思考①(エキスパート活動→ジグソー活動) 問題①の計算の仕方を考える。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>①小数方式・分数方式を選ぶ</p> <p>③ジグソー活動 学習班に戻って計算の仕方を説明する。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>②エキスパート活動</p> <p>他の学習班の 分数方式の友達と計算の仕方について話し合う。</p> </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>エキスパート活動を行う際の学習班の組み合わせ</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">8班</td> <td style="width: 25%;">6班</td> <td style="width: 25%;">4班</td> <td style="width: 25%;">2班</td> </tr> <tr> <td colspan="2">エキスパート活動 小数方式</td> <td colspan="2">エキスパート活動 分数方式</td> </tr> <tr> <td>7班</td> <td>5班</td> <td>3班</td> <td>1班</td> </tr> </table> <p>同じテーマのエキスパート活動グループの交流も必要に応じて行う。</p> </div>	8班	6班	4班	2班	エキスパート活動 小数方式		エキスパート活動 分数方式		7班	5班	3班	1班	・既習事項との比較を通して，本児で学習する内容を焦点化する。(算) ・本時で取り扱う問題と既習事項にずれが生じたことを児童が感じた時に学習課題を設定する。(算) ・グループ思考①では自分の役割を果たせるよう促すとともに，難しいときは友達のを借りながら進めるよう声掛けする。(協) ・ワークシートにまとめたことを用いながら，学習班やエキスパート活動グループの友達に分かりやすく説明するよう声掛けする。(協) ・要対人支援域の児童に望ましい姿が見られたときは，意図的にその行動を取り上げ，賞賛する。(協) ・ジグソー活動やまとめを行う際，下記の用語等を使っている児童を取り上げ，全体に伝える。 小数方式の説明で大切にしたい用語等 「分数＝分子÷分母」 分数方式の説明で大切にしたい用語等 「1を10等分したうちの3個分だから3/10になる」「通分」
8班	6班	4班	2班											
エキスパート活動 小数方式		エキスパート活動 分数方式												
7班	5班	3班	1班											

共に関わり合いながら、主体的に学ぶ児童を育てる指導

<p>展 開 30 分</p>	<p>8 問題①の計算の仕方をまとめる。</p> <p>小数方式 $\frac{2}{5} + 0.3 = 0.4 + 0.3 = 0.7$</p> <p>分数方式 $\frac{2}{5} + 0.3 = \frac{2}{5} + \frac{3}{10} = \frac{4}{10} + \frac{3}{10} = \frac{7}{10}$</p> <p>9 グループ思考②(学習班ごとの活動) 問題②を知り、計算の仕方を考える。 問題②</p> $\frac{2}{3} + 0.5$ <p>T : 問題①を小数方式で考えた人は、問題②では分数方式で計算の仕方を考えます。</p> <p>C : (小数方式)あれ、$\frac{2}{3}$ は小数にできないぞ。困ったなあ。</p> <p>C : (分数方式)0.5は分数にできるから、大丈夫。</p> <p>T : 学習班ごとに、それぞれの方法でどのように計算したか、説明しましょう。</p> <p>10 まとめ</p> <p>T : 問題①と問題②を比べて気付いたことをペアで話し合ってみてください。</p> <p>C : 問題①は小数方式、分数方式どちらでも計算できたけど、問題②は分数方式でしか計算できなかった。</p> <p>C : 分数方式の方が計算するときは便利だと思った。</p> <p>T : 小数と分数が混じった式の計算の仕方を自分の言葉でまとめましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>分数と小数の混じった計算は分数や小数にそろえて計算します。 小数に表すことができないときは分数にそろえて計算します。</p> </div> <p>11 適用問題を行う</p> <p>T : 自分の力でこの問題を解いてみましょう。</p> <p>分数方式</p> $\frac{1}{3} + 0.4 = \frac{1}{3} + \frac{4}{10} = \frac{10}{30} + \frac{12}{30} = \frac{22}{30} + \frac{11}{15}$ <p>小数方式</p> $\frac{1}{3} + 0.4 \quad \frac{1}{3} = 1 \div 3 = 0.333\cdots$ <p>C : 小数方式では分数を小数に表すことができないから、分数方式で解いた方がいいね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ思考②に入る前に、学習で大切にしたい姿と再度確認し、学び方に対する意識を持たせる。(協) ・問題①で行った方法とは違う計算の仕方でも考えさせる。(算) <p>考異分母の分数の加減計算の仕方について、分母をそろえることの意味を考え、説明している。(ワークシート・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適用問題は1問とし、分数方式でのみ計算できる問題とする。学習班ごとに計算の仕方や答えを確かめさせ、学習内容の理解を確かなものにする。(算) ・机間指導を通して、児童の学習内容の理解度を把握するとともに、つまづきが見られる児童に対しては、問題①②の解き方を振り返る等、個別に支援を行う。(算) ・答えを既約分数にしていない児童がいた場合は、約分するよう助言する。(算) ・小数方式で適用問題を行った児童に対しては、その方法が誤りであると伝えるのではなく、小数方式では問題を解く事ができない経験を通して、分数方式のよさに気付かせる。(算)
<p>終 末 10 分</p>	<p>12 振り返り 振り返りの視点 ①今日の学習班での学びの良かったところ。 ②次の学習でもっと良くしていきたいところ。</p> <p>13 学習班の仲間と授業終了のあいさつを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返った内容を学習班内でシェアリングさせることで、次時への学習意欲を更に高めていく。(協)